

2016年5月号

ほくし

発行所

一般社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号
プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

学術講演会

「二十世紀のペリオドントロジー」

大阪大学大学院歯学研究科
口腔分子免疫抑制学講座
予防歯科学分野教授

天野 敦雄 先生

H28.3.13

☑HP



いただき活気のある講演会となりました。

講演の最初に歯周病はギネスブックで世界最大の感染症に認定されている病気である事が紹介され、時代とともに変遷してきた歯周病の原因論(一九三〇年頃は歯石・一九六〇年頃はプラークの量・一九八〇年頃は歯周病原性菌・一九九〇年頃は歯周組織の抵抗力・二〇〇〇年頃はレッドコンプレックスの感染・二〇一〇年頃は共生関係の破綻)の話がされました。

三月十三日(日)、北区歯科医師会主催の学術講演会が大阪大学中ノ島センターにて開催されました。今年は大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫抑制学講座予防歯科学分野教授・天野敦雄教授に「二十世紀のペリオドントロジー」という演題でご講演いただきました。

今回は北区歯科医師会の会員とスタッフのみで会場が埋まる人気の講演会となり参加人数は会員三八名、診療所スタッフ八三名でした。

また、ライオン・クロスワールド・松風・ジーシーの四社に新製品の紹介・展示を行って

す！」と言われ会場から大きな笑いが起きて、天野先生の講演は終始ユーモアにあふれていました。

P・g菌には一八歳頃から感染し歯周病の好発時期である中年期まで長い間発症の時期を待っています。P・g菌が口腔内にいたとしても歯周組織の抵抗力とバイオフィルムの間に均衡がとれていれば発病はしないが、プラークの蓄積・歯周病組織の抵抗性低下・生活習慣・喫煙・栄養等から上皮バリアの決壊が起こりポケット内に潰瘍面が形成され、そこから出血から歯周病菌の大好物である鉄分・栄養分を供給することになり、増殖したP・g菌が免疫を抑制し、さらに他の菌も増殖することで高病原性のバイオフィルムが増えて歯周組織との均衡が崩れ歯周病が発症する。

歯周病菌は出血からのヘミン鉄が無いと増殖できないので、歯肉からの出血が大きなチェックポイントになり、歯ブラシ時・プロビング時の出血に注意しておく必要があります。歯周病治療の目標は、潰瘍面を閉鎖し出血を止めて、歯周病菌を飢餓鉄欠乏の状態にする事です。そうなるまでプラーク細菌叢が健康に戻り歯肉状態も元に戻ります。それには歯周

基本治療がとても重要になります。

悪玉P・g菌の中でもⅡ型P・g菌は歯周炎の発症リスクを四四・四四倍も高めます。P・g菌の遺伝子型を判別する高病原性歯周病菌検査はリスク判定に有効です。

二十世紀になって歯科医療が変わってきました。削る、詰める、切る、抜くのリハビリテーション治療から、科学的病因論に基づいた予防歯科医療へのパラダイムシフトが起こっています。予防歯科医療への実践のためには口腔内の危険因子だけでなく歯周病の発症・進行に強い影響力をもつ環境因子にも注意を払わなくてはなりません。歯科医や歯科衛生士は生活習慣や歯科の知識・教養に加え、ストレスやブラッシングの習慣など患者さんの日常生活を知り、必要なら日常を変えさせる心構えで患者さんの人生に寄り添ってバイオフィルムと歯周組織の均衡状態を守り、「人生の終わりでおいしく食べられましたよ」と言っていただけのような頑張るのが二十世紀のペリオドントロジーだそうです。天野先生には大変わかりやすい講演をしていただき参加者大満足の学術講演会となりました。

(学術部・英保武志)

パノラマ

保育所の入所待ちをする「待機児童」への関心が高まっている。二〇一五年四月一日時点で待機児童は二万三千七百人。大阪市でも入所倍率は一・〇五倍、特に一歳児での

倍率は二・三八倍となっている。安倍首相は成長戦略に「女性の活躍」を位置づけ、それを達成するため、二〇一七年度までに四〇万人分の保育の受け皿を確保して「待機児童ゼロ」を目指すとしているが現状ではとても実現困難な状況だ。子供の受け入れを増やすには保育所を増やすだけでなく保育士の確保が重要であるが、保育士自身が子供を保育所に預けられず復職できない、というような事態も起っている。また、保育士の離職率はかなり高く、人材確保には待遇改善が必要と思われる。早急な政府の対策が求められている。我々歯科業界でも特にここ数年人材の確保に苦慮している医院が多いのではないだろうか？新しいスタッフの確保が難しい今、いかに長くいい人材に働いてもらうか、女性スタッフが多数を占める歯科医院では大きな問題であり、結婚、出産後も働ける環境づくりのためには待機児童の問題は大きくかわつてくる為、我々も関心をもつて見守っていきたい。(K)

税務申告説明会開催

H28.2.1

HP

二月一日(月)、午後六時より大阪東急R.E.Iホテルにおいて税務申告説明会が開催されました。

大西理事の司会で、大塚会長の挨拶で始まり、北税務署の花房副所長の挨拶のあと、山中個人課税第一部門統括国税調査官と八木資産課税部門統括国税調査官により、(一)社会保障・税番号制度(マ

イナンバー制度)の概要、

(二)確定申告の留意事項、

(三)誤りやすい事例、(四)

平成二七年度税制改正点、

(五)平成二十一年及び平成

二十二年に土地等を取得

した場合の譲渡所得の特例、

(六)「財産債務調書」の提

出制度について詳しく説

明がありました。

今年度より大阪福島・北・

大淀税務署の庁舎内では、

在宅歯科医療連携体制推進事業 「他職種連携在宅歯科医療研修会」

日本は平均寿命の長さ、高齢者数、高齢化のスピードにおいて世界のトップを走っています。高齢化に伴って高齢者向けの医療サービスなどに大きな問題が発生しています。歯科界としても在宅歯科医療を推進するためにはいかに他職種の医療職と連携するかが急務になってきております。

そこで私たち歯科医師会は『在宅歯科医療連携体制推進事業』の一環として表題研修会を平成二六年度より開催しており

確定申告会場は開設せず、大阪駅前第二・第三ビル間地下歩道の「大阪福島・北・大淀税務署合同申告会場」に変更されるとのことです。確定申告についての情報は、国税庁のホームページで提供しているのので、ご利用くださいとのことでした。

最後に大浦副会長の挨拶で閉会しました。参加者は一七人でした。

(担当理事・大西秀威)

での口腔対応について、またサルコペニア、フレイルの兆候、回復には口腔からのアプローチが大切である事を講演していただきました。

ます。平成二七年度は北区ではいろいろな講師の先生をお招きして表題研修会を一〇回開催致しました。

第七回は十一月一九日(木)、

午後一時三〇分より北区

在宅サービスセンターに

て開催されました。講師

に糸田昌隆先生(わかく

さ竜間リハビリテーション

ン病院診療部長)をお招

きし『リハビリテーション

ン医学視点からの健康寿

命と口腔のかかわりとそ

の重要性』というテーマで、

リハビリテーション視点

他職種連携在宅 歯科医療研修会

H28.2.25

二月二五日(木)、午後一時三〇分から午後三時まで北区在宅サービスセンター四階にて平成二七年度第一〇回他職種連携在宅歯科医療研修会が開催された。

今回の講演内容は「地域包括ケアシステムにおける歯科の役割」在宅歯科ケアステーションとは」であった。今後医療が抱える二〇二五年問題で歯科の重要性やかかわり方について医療関係者が集まり勉強をした。尚講師は大阪府衛生士会常務理事の山口千里氏と北区歯科医師会から木下秀人が担当に当たった。

(副会長・木下秀人)

さし、「おいしく楽しく安全に食べるために②」口腔機能を高めるために」というテーマで講演していただきました。第九回は初めていろいろな口腔ケアグッズを用いて実習を行いました。講演だけでなく、実際に実習をすることにより、効果的な口腔ケアの習得に役立てることができました。

(担当理事・國田浩之)

医療保険部 からのお知らせ

平成二八年度医療保険ゼミナールをテーマごとに一〇回行います。(詳しくは別紙にて)

北歯ゴルフ同好会春季コンペ

H28.4.10

四月一〇日(日)、北歯ゴルフ同好会の春季コンペが、西宮高原ゴルフ倶楽部で開催されました。

今回参加者はメンバー一〇名に加え、大淀歯科医師会から二名、大淀薬剤師会



から一名とビジター合わせて六名、計一六名でした。当日は暑くも寒くもなく春のいい季節の中、初参加の先生も迎え、楽しく終えることができました。成績は大淀歯科医師会からご参加いただいた松井重文先生がスコア八三のBGで優勝、橋本收先生が二位、野口秀夫先生が三位という結果になりました。

次回の秋季コンペは一月一〇日(月・祝)伏見ゴルフ倶楽部にて開催予定です。奮ってのご参加お待ちしております。尚、ゴルフ同好会への入会を希望される先生は、土岐一仁先生までご連絡お願い致します。

(樋口夏彦記)

編集後記

熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。